

平成 21 年 8 月 28 日

社団法人日本肝臓学会
理事長 井廻 道夫

日本肝臓学会に主に関連する疾患のうち次の設問についてそれぞれ回答します。

① 新型インフルエンザ感染により重症化しやすいため、新型インフルエンザワクチンを優先的に接種することが望まれる基礎疾患を有する者の範囲や定義について

肝疾患とインフルエンザに関する文献は国内外共にほとんどないが、米国から肝硬変患者がインフルエンザ感染を契機に重症化した 3 例が報告されている（文献 1）。日常の診療では、進行した肝硬変患者では、発熱などを契機に意識障害の出現、肝機能の悪化等がしばしばみられる、従って、進行した肝硬変患者には優先的な新型インフルエンザワクチン接種が望まれる。現在、日本には 30～40 万人の肝硬変患者が存在すると考えられるが、肝硬変の重症度を示す Child-Pugh grade B および C の進行した肝硬変患者は、その 20～30%と予想され、従って優先的な新型インフルエンザワクチン接種が望ましい対象者は 10 万人くらいと考えられる。

② ①の者に接種する場合の有効性と安全性について

20 例の進行した肝硬変ではインフルエンザワクチン接種による抗体産生がみられたのは患者の 75～85%と低い、反応した患者の抗体価は十分高く、重篤な副作用はみられなかったとのイタリアからの報告がある（文献 2）。多数例での報告はないが、現時点ではインフルエンザワクチンは進行した肝硬変患者に接種しても問題ないとする。

（文献 1）Duchini A, et al. Hepatic decompensation in patients with cirrhosis during infection with influenza A. Arch Intern Med 2000;160:113-115

（文献 2）Gaeta GB, et al. Immunogenicity and safety of an adjuvanted influenza vaccine in patients with decompensated cirrhosis. Vaccine 2002;20:B33-B35